

起点のマイナス性と着点のプラス性、プラスの形容詞と マイナスの形容詞、そしてImplicational Universality

NEGATIVE SOURCE AND POSITIVE GOAL, NEGATIVE ADJECTIVE AND
POSITIVE ADJECTIVE IMPLYING THE IDEA OF IMPLICATIONAL UNIVERSALITY

梅本 孝

Takashi UMEMOTO

(平成19年 9 月25日受理)

1 はじめに

梅本(2006)では、起点の有標性と着点の無標性は生存戦略に適うかどうかに関与しているという仮説を出した。その中で、起点のマイナス性と到着点のプラス性についても触れた。本論ではその論文をもとに起点という概念と着点という概念の考察を違う角度から、更に深める。本論では「起点の開放性と着点の閉合性原理」という原理を提案し、それに伴って、「起点のマイナス性と着点のプラス性の原理」という原理も提案し、それによって起点の有標性と着点の無標性を示す。更に、形式的、意味的にプラスの形容詞と形式的、意味的にマイナスの形容詞の間にimplicational universality (含意的普遍性)が成立することを示したい。

2 起点の開放性と着点の閉合性

起点は出発した後、どこに行くかがわからないので、開放性と結びつき、着点はその場所が移動の終着点と結びつくので閉合性と結びつく。そのことから以下のことが成り立つ。

- (1) 起点はground (地) であり、着点はfigure (図) である: figure (図) とground (地) で言えば、起点は開放性と結びつき、輪郭がはっきりしないので、groundと結びつき、着点は閉合性と結びつくので、輪郭がはっきりするということでfigureと結びつく。

figureは無標でgroundは有標である。自然と目がいくものがfigureである。これはゲシュタルトの閉合の要因に基く。figureとgroundの例として、海面に浮き輪が漂っている場合、海面がgroundで浮き輪がfigureとなる。ゲシュタルトの閉合の要因の例としては、たとえば楽器のトライアングルが考えられる。楽器のトライアングルは欠けている部分があるために完全な三角形になってはいないが、欠けている部分を補って、あるいは無視をして、「トライアングル (三角形)」と呼んでいる。閉合の要因に関しては以下の図を参照。

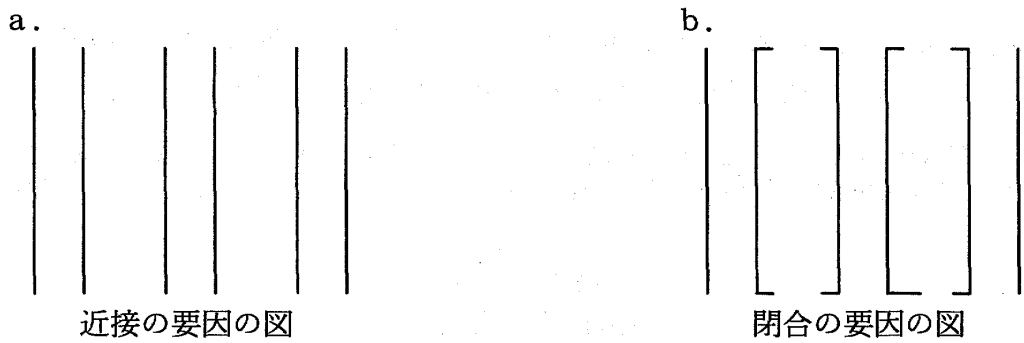
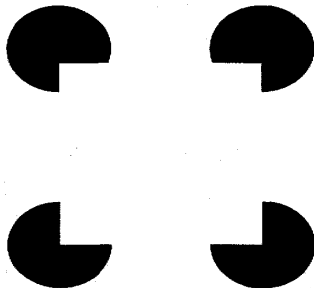
(鹿取・杉山(編) 2006²: 126)

図 2. 1

上の図の a. では近接の要因を表しており、3 組の近い 2 本の線どうしがまとまっているように見える。それに対して、b. では縦線は左の図と同じであるが、短い横線を付加したために、中央の 4 つの縦線が閉じられた空間を作っているように感じる。

次に、主観的輪郭を見る。以下の図は主観的輪郭の例である。4 つの黒いパックマン型の絵を以下のように並べると、4 つのパックマンの上に白い四角形が存在しているように感じる。この 4 つのパックマンを両手で覆うと、白い四角形は跡形もなく消える。この主観的輪郭は閉じられた空間として認識されるものであり、人間は閉じられていない空間よりも、閉じられている空間を優先的に認識すると想定できる。それでは閉じられているということと閉じられていないということの意味を考えたい。



主観的輪郭の例

図 2. 2

3 起点のマイナス性と着点のプラス性

閉じられたものと開いたものを比べた場合は、人は閉じられたものをふつうのもの、つまり無標のものとして捉えることを見た。そして、閉じられたものがfigure (図) として働くことも見た。figureとgroundではfigureが無標とされていることも常識である。それではここで述べたことは何と結びつくのであろうか。閉じられた空間にあるものがあれば、存在という概念と結びつくので、閉じられた空間はプラスの概念と結びつく。一方、開かれた空間はあるものがそこにあったとしても、空間が開かれているわけであるから、その空間にものが存在するとは認定しにくい。よって、存在しない、つまり、マイナス

の概念と結びつきやすくなる。起点が開かれた空間と結びつき、着点が閉じられた空間を表すとする、以下の仮説を設けることができる。

- (2) 起点のマイナス性と着点のプラス性：起点がマイナスの概念と結び付き、着点がプラスの概念と結び付く動機付けがある。言わば、存在物はプラスであり、非存在物はマイナスである。

梅本（2006：59－61）の繰り返しとなるが、起点と着点とを図式で考えてみる。起点は例えば図3.1を見れば分かる通り、入れ物から出て行くという概念と繋がり、着点は図3.3、図3.4を見れば分かるように、入れ物に入って行き、そこに留まるという概念と繋がる。つまり、「起点は入れ物の外」、「着点は入れ物の中」、ということである。入れ物の外に出るということは、「その場所にいなくなる」という引き算の概念となり、入れ物の中に入るということは「その場所に加わる」ということで、足し算の概念と繋がる。このことにより一般に起点はマイナスの概念と繋がり、着点はプラスの概念と繋がる。

起点のマイナス性と着点のプラス性に関連する更なる具体例として以下の例文と図3.1～図3.4を参照。→は肉体的、精神的移動（顕在する場合、潜在的な場合がある）、⇒はエネルギーの流れを表している。●は図3.1ではhim、図3.2ではhimselfとしてのYokota、図3.3ではhim、図3.4ではMaryを表している。

- (3) a. The rain prevented him from going to the beach.
b. Prof. Yokota refrained from smoking. (refrainの類例としてforbearがある)
c. The hurricane forced him to go back home.
d. John persuaded Mary to marry him.

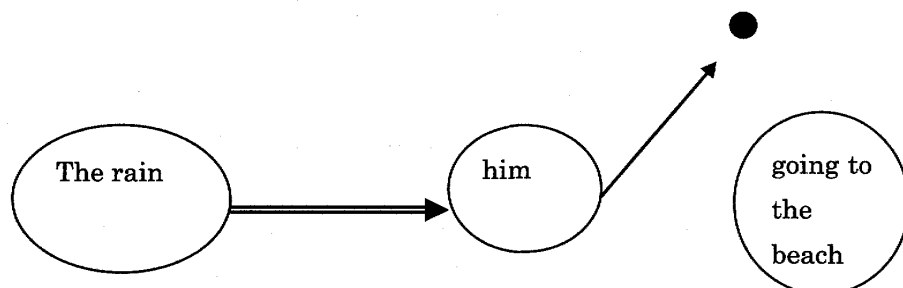


図3.1

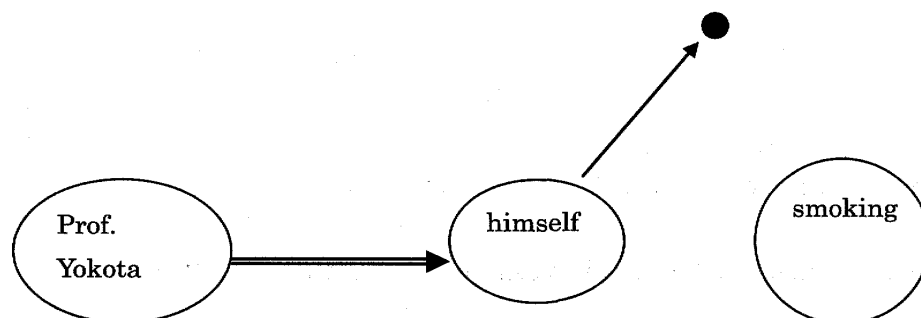


図3.2

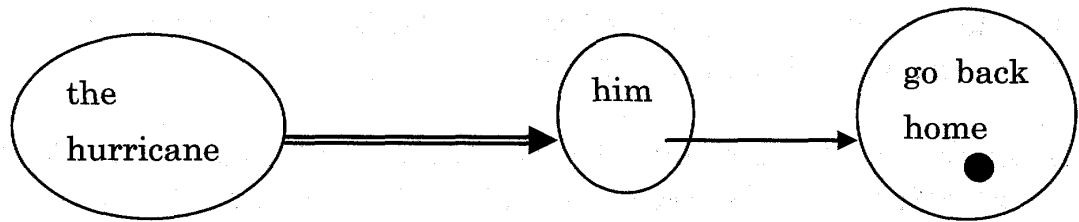


図 3. 3

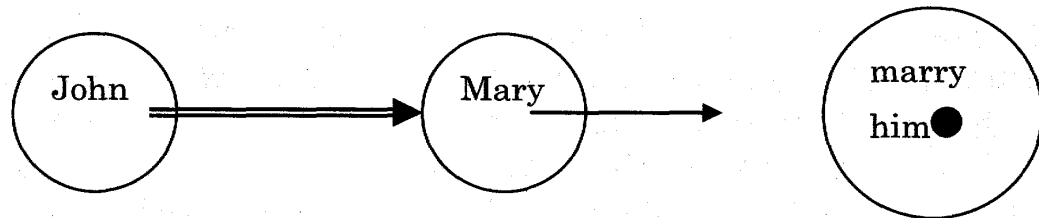


図 3. 4

4. 1 意味の点からマイナスとfromがそのままつながる場合

- (4) This year, to save me from tears
I'll give it to someone special. (Last Christmas by WHAM)
- (5) Tom saved the child from drowning.
- (6) A tree gave me shelter from the rain.
- (7) I think we ought to keep the bad news from Masao.
- (8) I cannot tell Taro from Masao.
- (9) Apart from a few scratches, the bicycle was undamaged.
- (10) He was accused of keeping information hidden from the public.
- (11) He is never free from/of pain.
- (12) The rain discouraged people from attending the parade.
- (13) Women are forbidden from going out without a veil. (LAAD)

これらはいずれも主語や目的語などの文の中の参与項がfromの目的語にあたるドメイン（抽象的な場所）に存在しないようにする、あるいは、存在しないようになるという意味を背後にもつ。

4. 2 意味の点からはマイナスではあるがfromとつながらずにtoとつながる場合

上のセクションの(13)の例文で使用したLAAD (=Longman Advanced American Dictionary (2009)) のforbidのところ以下に以下の例文がある。

- (14) Post Office rules forbid employees to accept tips. (LAAD)

「人があるドメインの中に入らないようにする→人にあることをさせないようにする」

という背後の意味を考えると、本来であればfromを使用し、from accepting tipsとなるところである。実際に、背後に同類の意味をもつdissuadeやdiscourageやprohibitはfrom doingをとる。以下に例文を記す。

- (15) Hopefully the movie will dissuade teenagers from drinking and driving.
(LAAD)
- (16) Schools discourage youngsters from being involved in gangs. (LAAD)
- (17) At that time there were laws that prohibited blacks from owning property.
(LAAD)

しかし、forbidの項を調べてみると、実際にはこのLAADのforbidの項には（意味的にはそぐわないはずの）to doの形式の [forbid sb to do sth] と（意味的に合致する）from doingの形式の [forbid sb from doing] の両方が記載されている。インターネット上の検索サイトgoogleでto doとfrom doingの形式を比べた場合、2007年8月3日現在で、forbid employees to acceptの形式は156例であるのに対し、forbid employees from acceptingの形式は49例となっており、どちらの形式も認められる。つまり、本来の意味から考えれば、fromが要求されるような場合ではあるがtoをもってくることができるということである。しかし、逆にtoが要求されるような場面でfromが要求されることはない。toがfromに対して優位な地位を占めているということである。この現象に類する現象に関してはIkegami (1987) でgoal-over-source principleとして詳しく取り上げられている。ここでは触れない。このことはプラスの概念のマイナスの概念に対する優位性を表している可能性がある。

5 プラスの形容詞とマイナスの形容詞のimplicational universality

fromがマイナスで、意味的にその対極に当たる単語のtoがプラスだと考えると、それでは、ここでその他の反意語のプラスとマイナスのペアを考えるとどうなるであろうか。本論では原則としてLongmanのDictionary of English Language and Culture third edition (2005) (これ以降LDELICと記す)¹ のみを用い、形容詞の反意語のペアのみを問題として考察してみる。たとえば、形容詞のhappyがプラスの形容詞であれば、unhappyはマイナスの形容詞であると考え。 (ちなみに、happyの反対語はsadとも考えられるが、本論では語頭に否定語のun-が付くもののみを反意語とする。) 例えば、最初の代表例としてhappyとunhappyのペアを記す。happyには以下の用法がある。

- (18) a happy child
- (19) I'm so happy that you could come.
- (20) You'll be happy to know that she's just had a baby girl.
- (21) The government won't be very happy about the latest unemployment statistics.
- (22) By a happy coincidence we were all booked in the same hotel.

- (23) His choice of words was not a happy one.
- (24) I'll be happy to meet him when I have some free time.

それに対して、反意語のunhappyでは以下の用法となる。

- (25) an unhappy childhood
- (26) We were unhappy about the way the press has treated this incident.
- (27) an unhappy choice of colours
- (28) an unhappy coincidence

つまり、形式面でunhappyの用法にあるものがすべてhappyには揃っているが、happyに揃っている用法が必ずしもunhappyに揃っているとは限らない。具体的にはunhappyはhappyとは違って、以下の用法を欠いている。

- (29) 後ろにthat節を従えるもの (happy that) (=19)
- (30) 後ろにto不定詞を従えるもの (happy to do) (=20、24)
- (31) Happy New Year, Happy Birthdayなどの定型表現²。

この反意語のペアをみた限りでは、形容詞の2つの用法である限定用法と叙述用法のうち、マイナスを表すunhappyは叙述用法が発達していないことがみてとれる。逆に、unhappyにある用法（形式と意味³の両方を含めて）はすべてhappyには存在する。逆の例はないだろうか。つまり、un形容詞には叙述用法のみで、その反意語の形容詞には限定用法と叙述用法の両方が存在するペアはないだろうか。一例としてable-unableのペアを見る。(32)－(37)がableの例。(38)、(39)がunableの例)

- (32) Will you be able to come to our party?
- (33) I think David is more able/better able to deal with this problem than I am.
- (34) We are not yet able to predict the result.
- (35) They are willing and able to help.
- (36) She's an able teacher/a more able teacher than he is.
- (37) to assist the less able among us
- (38) He seems unable to understand the simplest instructions.
- (39) I'd like to go, but I am unable to.

しかし、ableは起源が動詞であり、もともと叙述用法を基本として発達した形容詞である。このような例外的な形容詞の場合にはunableは叙述用法のみとなる⁴。しかし、それでもやはり、ableには叙述用法と限定用法の両方がある一方で、unableには叙述用法しか存在せず、マイナスにあるものは必ずプラスにあり、プラスにあるものはマイナスにあるとは限らないという原則がなりたっている⁵。

語頭にa- が付く基本的な用法が叙述用法の形容詞の場合も同様である。以下のawareの例文を参照。

- (40) He said that the government was acutely aware of the problem.
- (41) I'm well aware that this is a risky investment/well aware how risky this investment is.
- (42) politically aware/artistically aware.
- (43) She's a very aware person.

このようにawareは叙述用法が基本である。そのような場合にはun形容詞も叙述用法を保持する。以下を参照。

- (44) He seemed to be unaware of the trouble he was causing.
- (45) He was completely unaware that he was being watched.

この場合は基本用法の叙述用法のみが維持されている。un形容詞はそのペアのプラスの形容詞（この場合はaware）の一番根源的な部分をまずは引き継ぐと考えてよい。次にcertainとuncertainのペアを見る。

- (46) There is no certain cure for his illness.
- (47) It's almost certain (that) they're dead by now.
- (48) It's not certain when he lived.
- (49) She was quite certain (about/of it).
- (50) I'm almost certain (that) she saw me yesterday.
- (51) We are not certain where he lives.
- (52) The army marched off to face certain death.
- (53) She's certain to pass the exam.
- (54) It's certain (that) the price of gold will go up.
- (55) It now looks certain that the game will be postponed.

一方、uncertainの例文は以下の通りである。

- (56) I'm uncertain of his intentions.
- (57) I'm uncertain how to get there.
- (58) Our holiday plans are still uncertain.
- (59) uncertain weather

このペアではマイナスのuncertainにおいてはプラスのcertainにある形式(a) : it be certain thatの形式 (= (47)、(54)、(55))、(b) : someone be certain to do (= (53)) の二つの形式を欠いている。つまり、これらの形式はマイナスの形容詞とプラス形容詞のどちらに

もあるわけではなく、片一方にしか存在しないのである。関連する二つの単語に跨る意味や構文は一つの単語にしか存在しない意味や構文よりもより一般的な特徴を有することになる。このことは it be 形容詞 that の構文、someone be 形容詞 to do の構文は uncertain に存在せず、certain においてのみ存在するので、それらの構文は certain が有する構文のなかで、非典型的な構文であるということになる。

つまり、今まで見た限りでは、A（この場合はプラス）にあるものは必ず B（この場合はマイナス）にあり、BにあるものがAにあるとは限らないという implicational universality が発生している。例外を探すために、次に charitable-uncharitable のペアを見る。charitable の例を参照。

- (60) I know he made a mistake, but let's be charitable - he was tired at the time.
- (61) Even on the most charitable analysis, it has not been a great success so far.
- (62) a charitable institution
- (63) a charitable donations

uncharitable の例を記す。

- (64) It was rather uncharitable of you to comment on her large nose.
- (65) an uncharitable refusal

この場合は charitable の方は限定用法、叙述用法の両方を保持し、uncharitable も同様に限定用法、叙述用法を保持している。それに加え、uncharitable は charitable に載っていない構文の it be uncharitable of someone to do の構文を有している。it be charitable of someone to do は google で調べた限りにおいて uncharitable の場合と同じ程度に使用されるので、完全な反例とは言い難いが、当該の辞書 (Dictionary of English Language and Culture third edition (2005)) に載っている例文だけに着目すると反例となる。次にプラスの形容詞とマイナスの形容詞との意味の範囲の大小が大きい形容詞のペアとして fair - unfair のペアを挙げる。

- (66) a fair decision
- (67) You must be fair to both sides (=treat them both equally).
- (68) He was late for the meeting but to be fair he didn't know about it until this morning.
- (69) It's not fair! Why should she have first choice?
- (70) That was a perfectly fair tackle (=allowed by the rules of the game).
- (71) I think it's fair to say that she was not to blame for the accident.
- (72) They've brought an adjudicator in to see fair play (=make sure everyone is treated justly) in the competition.
- (73) They are determined to win the election by the fair means or foul. (=in any way, honest or dishonest)

- (74) His knowledge of the language is fair.
- (75) Her written work is excellent, but her practical work is only fair-to-middling.
- (76) She has a fair-sized garden.
- (77) I think I've got a fair idea (=a reasonable understanding) of what the job involved.
- (78) The builders are making a good progress but they still have a fair way to go. (=quit a lot more to do)
- (79) a fair complexion
- (80) a fair sky
- (81) a fair wind
- (82) I believed his fair promises.
- (83) It's a fair treat to hear her sing.

unfairの例。

- (84) It's very unfair that the whole class should be punished because of one person's mistake.
- (85) Her friendship with the director gave her unfair advantage at the interview.

以上の例からunfairの場合はfairと比較して、以下の形式を欠いている。

- (86) someone is fair
- (87) it's fair to do⁶

そして以下の意味を欠いている。

- (88) light in colour; not dark
- (89) not stormy; clear
- (90) favourable to a ship's course
- (91) beautiful
- (92) pleasing but not sincere
- (93) real

意味を欠いているという意味はどのようなことかということ、unfairは今述べた意味の逆の意味を持っていないということである。例えば、それぞれdark, stormy, unfavourable to a ship's course, ugly, sincere, unrealの意味を持っていないということである⁷。

ここでunfairが持っている意味はfairの意味のうちのjust, reasonable, honestといった意味の反対の意味のみである。just, reasonable, honestといった意味は現在のfairの意味のうち、もっとも頻度が高く発生する意味である。fairは英語においては「美しい」

という意味がもともとの意味であるが、unfairは現在、「美しくない」という意味ではなく、fairの一番頻度の高い意味の反対の意味 (i.e. not just, reasonable, or honest) で使用されている。それに対して、反論となる単語を挙げる。faithful - unfaithfulのペアを挙げる。faithfulの例。

- (94) a faithful friend
- (95) The dog remained faithful to his master.
- (96) a faithful account/copy/translation
- (97) no example sentences (loyal to one's partner by having no sexual relationship with anyone else)

unfaithfulの例。

- (98) She was unfaithful (to her husband) for years before he found out.
- (99) no example sentences (*rare* not faithful or loyal)

この場合はunfaithfulの例文としては「自分の婚姻の相手に不義理をする」意味しかないが、プラスのfaithfulにはその意味での例文はない。つまり、マイナスの形容詞が表している意味の反対の意味がプラスの形容詞の一番頻度の高い中心の意味にはあたらない。しかし、それでもマイナスにあるものは必ずプラスにあるというimplicational universalityは適用される。

さらに、例外となる可能性のあるペアを考える。feeling - unfeelingのペアである。

- (100) She gave him a feeling look. (meaning: 「強い感情を示す (showing strong feelings)」)
- (101) It was unfeeling of them not to give him leave to go and see his sick wife. (meaning: 「冷淡な (cruel; not sensitive or sympathetic towards others)」)

この場合はunfeelingが「冷淡な、不親切な」という意味で辞書に記載されている。implicational universalityの考え方に基くとfeelingに「冷淡な、不親切な」の真逆の「やさしい、親切な」の意味があるはずであるが、当該辞書にはない。本論で示したように、当該の辞書に記載されている情報のみに限定して考察すると、これは例外となる。(さらにこのペアはマイナスのunfeelingが叙述用法のみで、プラスのfeelingが限定用法のみとなっており、最初にhappy - unhappyでみた考察と逆の結果となっているが、この場合も純粋な形容詞ではなく、動詞起源の現在分詞であることが明らかであるので、典型的な形容詞の振る舞いと異なっていることは想定内のことである。)

しかし、Gove et al. (ed.) (1986: 835, 2495) によると、feelingはもともと「感情がある (sentient, sensitive, easily affected or moved emotionally)」という意味である⁸。その後に「強い感情を示す (expressing or evincing great sensitivity or emotional susceptibility)」の意味を発達させた。逆にunfeelingは「感情がない (devoid of

feeling or sensation)」という意味で、そこから「冷淡な (devoid of kindness or sympathy)」という意味に移行しているので、意味の推移を考慮に入れるとまったく問題はなくなる。つまり、feelingが「感情がある」、unfeelingが「感情がない」というペアになる。したがって、当該の辞書のみで考えれば例外となるが、歴史的な推移まで考慮に入れると、このペアも例外とは言えなくなる。

最後に典型的な形容詞⁹の例の一つとしてkindとunkindのペアをみる。

- (102) a kind person/action/thought
- (103) She's very kind to animals.
- (104) It was very kind of you to visit me when I was ill.
- (105) They've been very kind about letting our children play in the garden.
- (106) Would you be kind enough to do it for me?
- (107) Would you be so kind as to do it?

次にunkindの例をみる。

- (108) an unkind remark
- (109) unkind weather

これで判断できることはkindには限定用法と叙述用法があるが、その反意語のunkindには限定用法しかないということである¹⁰。このことが示唆していることは典型的な形容詞らしい形容詞の本質的、中心的な用法は限定用法であって、叙述用法は派生的な用法であるということである。最初のペアとして挙げたhappy - unhappyのペアにもまったく同じことが言えることにも注意。Quirk et al. (1986) の形容詞の説明の中にも形容詞は限定用法が典型的な用法であることを示唆する記述があり、その記述と本論の主張はその点で一致する。(114) - (119)を参照せよ。例えばQuirk et al. (1986: 461) によるとlikeを比較級にするときは-erを使う屈折形ではなく、moreを使う迂言形が使用される。likeは形容詞とも理解できるが、前置詞とも解される微妙な形容詞であり、形容詞の中では極めて非典型的な形容詞である。likeは形容詞としては通常限定用法で用いることができず、叙述用法でしか用いることができないことに注意。以下を参照 (Quirk et al. (1986: 461 - 462))。

- (110) She is more like/*liker her grandmother.

その他の場合も、純粋な単語の形式面からは-er形の比較級を用いても、more形の比較級を用いてもどちらでも容認される場合であっても、形容詞として非典型的な場合にはmore形のみが容認されられている。以下を参照。

現在分詞や過去分詞が形容詞として用いられている場合。

- (11) interesting more interesting
- (12) wounded more wounded
- (13) worn more worn

また、er形の比較級とmore形の比較級の両方が容認される場合であっても、形容詞が限定的に用いられている場合よりも、叙述的に用いられている場合の方が迂言形のmoreの使用がより容易である旨が記されている。以下を参照。

- (14) John is more mad than Bob is.
- (15) It would be difficult to find a man more brave than he is.
- (16) He is more wealthy than I thought.

IV まとめ

4. 1 起点のマイナス性と着点のプラス性

起点の有標性と着点の無標性に関しては起点はマイナスの概念で着点はプラスの概念とみなすことで説明ができる。

4. 2 プラスの形容詞とマイナスの形容詞のimplicational universality

当該の辞書 (Dictionary of English Language and Culture third edition (2005)) に掲載されている否定辞のun-が付くマイナスの形容詞の全てとそれに対応するプラスの形容詞を調べた結果、全ての典型的な形容詞に関して、マイナスの形容詞にある意味や構文は必ずプラスの形容詞にあり、逆にプラスに意味や構文が必ずしもマイナスにあるとは限らないというimplicational universalityがほぼ成立する¹⁾。

- 1 この辞書は複数の意味が存在する場合には意味の歴史の古いものから列挙しているのではなく、頻度の一番高い意味から順に意味を列挙していると考えてよい。この辞書には意味の順番に関しての説明はないが、意味の列挙の順番がほとんど一致するLongmanのAdvanced American Dictionary (2000) では頻度の高い意味を最初に持ってくるということが明記されている。
- 2 ここでは例として定型表現を入れたが、以後は辞書に定型表現として載っているものは扱わない。
- 3 ここではhappy「幸せな」という意味の反対の意味は「幸せではない」と考える。そして、「幸せではない」という意味は「幸せな」という意味を基盤に成立していると想定する。よって、その意味で「幸せではない」の意味は「幸せな」という意味の中に含

まれると考える。この意味の包含関係は以下のすべての例においても同様に考える。

- 4 大きな辞書を調べれば限定用法のunableも見つかるが、原則としては本論ではあくまでLDELCの中に掲載されているかどうかを基準とする。あるかないかということは、この辞書の見出し語として掲載されているかどうかによって判断をしている。abridgedは見出し語としてはないが、動詞のabridgeの例文の中でthe abridged version of 'War and Peace'とある。この場合は見出し語としてないので、存在しないものとして扱う。プラスの形容詞かマイナスの形容詞かどちらか片方しか見出し語にない場合はそのペアは一切扱わない。
- 5 ableはunableとは違ってtheを付けた名詞として扱う用法も存在することにも注意する必要がある。
- 6 この形式はLongmanのAdvanced American Dictionary (2000) には出ている。
- 7 寺澤 (ed.) (1997) によると、unfairは古英語から17世紀にかけては「美しくない」という意味を保持し、1801年に「(風が) 逆の」という意味が初出しているとしている。
- 8 Gove et al. (ed.) (1986) は意味の配列は頻度に関係なく、歴史的に古い意味から新しい意味に配列をしている。
- 9 ここで言う形容詞の典型性とは、もともとの文法的な使われ方が叙述用法ではない形容詞で、かつ動詞起源の形容詞ではないという意味で典型性ということばを使用した。したがって、ここでは大部分の形容詞が典型的な形容詞ということになる。
- 10 繰り返しとなるが、あるかないかはあくまでも当該の辞書に載っているかどうかで判断をしている。unkindは叙述用法として使用することもあるが、本論で基準とする辞書には載っていないということである。
- 11 un-の形式が掲載されているからといって、必ずしもそれに対応するプラスの形容詞が掲載されているわけではない。例えば、unaccompanied, unadopted, unadulterated, unadvisedなどは（それに対応するプラスの形容詞が存在することは明白であるが）当該の辞書に載っていないために、ペアとして存在しないものとして扱う。そのようなペアは本論から除外して考察している。本論ではマイナスのun-の形式とそれに対応するプラスの形容詞が掲載されている全ペアに関する結論である。

参考文献

- Dixon, R. M. W. (2005²) *A semantic approach to English grammar*. Oxford: Oxford UP.
- Equinox Films (1994) *The Human Language* (PBS television series) . Equinox Films, Inc. (日本では1995年7月29日2000-2045にNHKより『海外ドキュメンタリー「ことばの不思議第3回 どうして進化したの?」』として放送される)
- Gove et al. (ed.) (1986) *Webster's Third International Dictionary*. Merriam-Webster Inc.
- Honda, A. (本多啓) (1994) "From spatial cognition to semantic structure: the role of subjective motion in cognition and language". *English linguistics* 11. 197-219.
- Ikegami, Y. (池上嘉彦) (1987) "'Source' vs. 'goal' : a case of linguistic

- dissymmetry". In: Dirven, R. & Radden, G. (eds.) *Concepts of case*. Tübingen: Gunter Narr. 122-146.
- Jackendoff, R. (1983) *Semantics and cognition*. Cambridge, MA: MIT Press.
- 鹿取廣人・杉本敏夫 (eds.) (2006²) 『心理学第2版』. 東京大学出版会.
- 久野暲 (1978, 1989¹) 『談話の文法』. 大修館書店.
- Langacker, R.W. (1990) "Subjectification". *Cognitive linguistics* 1. 5-38.
- 森雄一 (1997) 「受動態の動作主マーカーとして用いられるカラについて」. 『茨城大学人文学部紀要 (人文学科論集)』 30. 83-99.
- Murry, J. A. H., Bradley, H., Craigie, W. A. & Onions, C. T. (1884-1928) *The Oxford English Dictionary*. 12 vols. Oxford: Clarendon press.
- 小野経男 (1990) 『新英文法』. 数研出版.
- 佐伯哲夫 (1987) 「受動態動作主マーカー考 (上)」. 『日本語学』 6-1. 100-106.
- 砂川有里子 (1984) 「『ニ』と『カラ』の使い分けと動詞構造について」. 『日本語・日本文化』 12. 71-87.
- 寺澤芳雄 (ed.) (1997) 『英語語源辞典』. 研究社.
- 梅本孝 (2006) 「起点 (カラ, from) と着点 (ニ, to)」. 『環境と経営 (静岡産業大学経営研究所)』 12-1. 51-63.
- (2007) 「起点と到着点をめぐって」. 『日本認知言語学会論文集』 7. 日本認知言語学会.
- 山梨正明 (1988) 『比喩と理解』. 東京大学出版会.
- (1995) 「認知文法論のパースペクティヴ」. 『日本語学』. 9月号. vol.14. 73-91.
- Yule, G. (1985, 1996²) *The study of language*. Cambridge: Cambridge University Press. (『現代言語学20章』 大修館書店)